

新潟市子ども・子育て会議
第 15 回「放課後児童クラブ検討部会」会議概要

開催日時	令和元年 8 月 2 日（金）午前 10 時 00 分～11 時 45 分
会 場	新潟市役所分館 1－601 会議室
出席委員	植木部会長、大竹委員、関川委員、長崎委員、長谷川委員、政谷委員、山岸委員 （全委員主席）
事務局等 出席者	こども政策課長、同課長補佐、育成支援グループ係長、副主査、 企画管理グループ係長、ジャパン総研株式会社 計 8 名
傍聴者等	傍聴者 2 名
議事内容	<p>1. 事務局よりひまわりクラブの現状について報告を行いました。</p> <p>（1）児童数の推移について （2）運営体制について （3）施設整備の状況について</p> <p>2. 第 2 期新潟市子ども・子育て支援事業計画（以下、計画という）の策定及び「量の見込み」の算定について議論しました。</p> <p>○事務局より、計画策定とそのスケジュールについて説明し、計画における放課後児童健全育成事業の「量の見込み」について新潟市の算出方法を説明しました。</p> <p>○量の見込みや計画について委員からは以下の意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在 18 時 30 分までの開設時間となっているが、保育園・幼稚園の開園時間は 19 時までである。働く保護者やひとり親のことを考え、閉所時間の延長について検討していく必要がある。 ・開所時間を長くすればいいという意見もあるが、子どもの立場になって、家庭で過ごす時間など誰が育てていくのかという視点も持って議論すべき。 ・待機児童を出さないことを大前提として整備していくことで、毎年度振り返りをして見通しを立てることが重要。 ・ひまわりクラブからひとりで帰る子どもについて課題意識を持ち、そのような子どもの見守りについての取組や地域との連携が必要。 ・地域でできることにも限界があるため、各地域に近い公共施設をひまわりクラブとして活用できれば、帰る道も短くなり少し安全に下校できるのではないか。 ・社会全体が、子育て世代が仕事から早く帰るなど優遇できるような社会になっていかなければ、子どもたちにとって有益になっていかないのではないか。

令和元年度第1回 新潟市子ども・子育て会議子ども・子育て支援ネットワーク部会
会議概要

開催日時	令和元年8月6日（火）午後1時30分～午後3時30分
会 場	市役所分館6階 1-601会議室
出席委員	阿部委員、大竹委員、菊池貴子委員、菊地千以委員、小池委員、佐藤委員、椎谷委員、長谷川雅之委員、福土委員、平田委員、横尾委員（出席11名、欠席1名）、中嶋オブザーバー
事務局 関係課 出席者	こども政策課長ほか同課より5名、こども家庭課長ほか同課より2名、保育課長ほか同課より3名、児童相談所より1名、教育総務課より4名、株式会社ジャパン総合研究所職員1名
傍聴者	2名
内容	<p>【議事】</p> <p>（1）「第2期新潟市子ども・子育て支援事業計画」の策定について</p> <p>○事務局より計画の策定について概要と部会の所掌事務等について説明を行いました。</p> <p>○委員からは特に質問や意見はありませんでした。</p> <p>（2）第2期新潟市子ども・子育て支援事業計画にかかる量の見込み及び方向性について</p> <p>○事務局より対象となる事業の概要、取り組み状況、現状・課題、今後の方向性、量の見込み算出の考え方等について説明を行いました。</p> <p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p> <p>＜妊娠・出産サポート体制整備事業（利用者支援事業）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「妊娠・子育てほっとステーション」が各区役所（行政）にあると、身近な窓口とは感じない。 ・出生届時に様々な支援情報のチラシを配布されるが、他の手続き等で手一杯で目を通しきれない。スマートフォン等でいつでも手軽に確実な情報にアクセスできるような工夫を。 ・行政だけでの利用者支援事業は役割が限定的だと思う。NPOや民間団体と連携を深め、継続的な支援体制のパッケージをつくるような工夫を。 <p>＜こんにちは赤ちゃん訪問事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、児童委員などの地域の人材の活用を。赤ちゃん訪問時などに、地域の民生・児童委員を紹介するなど、行政には家庭と地域人材をつなぐきっかけづくりをしてほしい。

<p>内容</p>	<p><病児・病後児保育事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児保育の充実は評価するが、子どもが病気ときには預けて仕事に行くのではなくできるだけ仕事を休めるような環境になるよう、企業や事業者にはたらきかけていくべき。 ・単に病児保育室の施設数を増やしていくことには反対。適切な医療・看護の必要があるため、数だけでなく質も高めるべき。 <p><地域子育て支援拠点事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育休取得後仕事復帰するお母さんが増え、それに伴い利用者は0歳～1歳児が増えている。 ・利用者からもっと早くから支援センターのことを知りたかったという声があるので、妊娠期から情報提供や見学・参加できるような取り組みがあるとよいのでは。 ・赤ちゃんの利用が増えている中で、乳児と幼児が安全に一緒に過ごせるよう配慮・工夫が必要。 <p><ファミリー・サポート・センター事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からファミサポ提供会員による病児の代理受診が可能になったが、今のところ、利用実績がない。もっと周知に力を入れるべき。 ・実際にファミサポを使わなくても、念のために依頼会員になっている家庭が多い。いざというときのための安心感に寄与しているのであれば、それでもよいと思うので、今後も提供会員が増えていくようにはたらきかけてほしい。 <p><子育て短期支援事業（こどもショートステイ）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では2歳までの受け入れとのことだが、3歳以上のニーズもあるはず。 <p><養育支援訪問事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用回数に一律の上限があることに疑問。各家庭の状況に応じて回数を設定できるようになるとよい。
-----------	---

令和元年度 第1回 新潟市子ども・子育て会議 幼保部会
会議概要

開催日時	令和元年7月30日（火）午前10時00分～午後0時00分
会 場	新潟市役所本館3階 対策室1
出席委員	小池委員、斎藤委員、椎谷委員、志賀委員（出席4名、欠席1名）
事務局等出席者	保育課長ほか同課より6名、株式会社ジャパン総合研究所職員2名
傍聴者	2名
議事内容	<p>【議事】</p> <p>（1） 第2期新潟市子ども・子育て支援事業計画にかかる量の見込み及び方向性について</p> <p>○事務局より対象となる事業の概要、取り組み状況、現状・課題、今後の方向性、量の見込み算出の考え方について説明を行いました。</p> <p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p> <p><教育・保育の量の見込み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋葉区の令和5年度の利用者数は定員が800から600台になっているが、保育の2号の人数はこの人数になるのか。 →あくまでも定員。人口減に合わせて減っていくこととなる。 ・認定こども園の幼稚園枠は変わらないか。幼稚園が無くなった分、認定こども園の幼稚園枠に入ろうと思っても少なく、待機児童が出るということはあるか。 →秋葉区の2号の枠については、今現在余っている。幼稚園の1号で入れなかった人達のために、認定こども園の幼稚園枠を増やしていかななくてはならないが、現状ではこのようになっている。 ・公立保育園の再編計画が前提の数字ということか。 →そこまでは加味されていない。 ・これからの考え方としては、フルスペックの認定こども園は必要ないという考え方か。 →場所とタイミングによる。 ・総論的にフルスペックの認定こども園は必要なく、1・2歳児に特化した小規模保育を、1号で余っている場所を使ってやっていくのがベターという考え方か。 →そのとおり。29年度から小規模保育事業を増やしている。 ・予算的なこともあると思うが、今の条件をみるとフルスペックは必要ないと感じる。小規模を増やしていくというのは素晴らしいことだと思うが、接続（出るときの受け入れ）を、ある程度きちっとしてい

ないと、受け入れの方でトラブルが生じてくるのではないか。

→小規模保育事業が制度として出来上がった時に、連携園を必ず作りなさいという国からの指示になっており、27年からの5年間で、今後については、連携がないものについてはやっていけないことになっている。受け入れ側の体制をしっかりとしていかなければいけないと思っている。

- ・区ごとでも結構ばらつきがあるので、一概に言えないこともあるが、量の見込みとしては、市全体の傾向を記載するということに止めないと、ということもあると思うのでその中で見て頂ければと思う。
- ・0歳児は、最近は4月入園される人も多くなってきている。1歳過ぎから2歳までの間という人が増えてくると、1・2歳児の利用者が多くなるというのはあると思う。
- ・0歳まではご家庭で、1歳になってくると預けましょうという形になってきているは、社会の保障が出来てきている感じがする。
- ・園だけで守るのではなくて、社会みんなで子育てをしようという仕組みは大事。
- ・数字だけ見れば入れるところはあるが希望されているところには入れるか分からない。

→補足だが、1歳、2歳の利用数と定員の中で、今現在も足りていない数字になっているが、現実的には定員を超えた受け入れで対応している。

・3号が足りていない状況だが、この人達はどこかにいるということか。
→そのとおり。

・待機児童は出ていないということか。

→そのとおり。

- ・数字と確保の方策の方向性（案）の文言について、確認した。

<幼稚園の預かり保育事業>

- ・幼稚園教師確保とは、具体的にどうやって確保していく見通しか。
- 今年予算の中で、幼稚園教師や保育士確保の予算請求をするため民間事業者意見に意見を頂く準備をしている。

<保育施設等での一時預かり事業>

- ・ニーズに合わせた対応がどこまで出来ているのかは、今回の調査では把握しきれない。リフレッシュ等の活用がどこまで使えているのか心配なところではあるので、個人的には、その他の特記事項に考えて記載をして頂きたい。
- ・その他の2点目の記述で、拠点への必要性については検討を行うというのは、どういう趣旨か説明してほしい。

→一時預かりよりも入園にシフトしている現状があるので、拠点も一時預かりよりも常時預かるお子さんを、保育室の最大限まではお預かりしたいと希望もあった。拠点を今後増やしていくか、新しい施設が出

来たときに、一時預かりをメインにするのか、元々の定員の方を増やすのかということもあるので検討事項にしている。

リフレッシュを使いたくても、使えていない現状があるかもしれないが、常時保育が必要な人が優先となっている。

- ・そこを確保しつつ、一時預かり・リフレッシュ系を、どこでどう組み立ててやっていくのか。保育園の機能をプラスアルファでやっていくのが良いのか。支援の場のプラスアルファでやっていくのか。少し見直していかなければいけないと思う。

保育施設が、常時保育が必要な人達を中心にやっていくのは問題ないと思うが、使えていない人達をどこで受け入れていくのかというのは、新たな課題だと思う。

→中央区でやっている「子育て応援ひろば」は、リフレッシュも出来るし、買い物も出来るということで、非常に良い施設だと思っている。

- ・ああいう形で作ると、事業目的に近い人達が使いやすくなると思う。
- ・お母さん達のリフレッシュもそうだし、医者に行く、保育園の遠足に下の子を連れて行けないなど様々な理由があるが、保育園が難しいのであれば、民間も必要になってくると思う。
- ・入学式や卒園式、遠足などが、重なったときに、預けたいときに預けられる環境になっていって欲しい。
- ・一時預かり事業については、これまでの実績値に合わせて見込みの数字を出していくということと、その他の特記事項を示すということによい。

<時間外保育事業>

- ・既に新潟市内全園でやっており、量の確保としては伸びている。これは全園で引き続き実施ということになるかと思うが、新潟市で時間外保育を一番多くしているところは何時間か。

→夜間保育施設が市民病院前に1園ありますが、夜の1時半までやっている。

- ・フルで夜空いている所はないのか。

→昨年、24時間保育している所がやめた。遅くても7時半とか8時ぐらいまで。

(2) 令和元年度新設等を予定する特定教育・保育施設等について

○事務局より、令和元年度に新設等を予定している施設と認定こども園への移行施設、令和2年度に保育所等施設整備要望一覧について説明を行いました。

(3) その他

○幼児教育・保育の無償化にかかる状況等について、事務局より説明を行いました。